



今回の紙面

- ◆ 地域医療最前線 NO. 59 《松下耕太郎 所長》
- ◆ 看護師さんのページ NO. 39 《宮本裕美子 看護部長》 ◆ 研修医のページ NO. 42 《青笹有紀 先生》
- ◆ 島根県医療勤務環境改善支援センターの活動報告 ◆ 平成 27 年度夏季地域医療実習報告会
- ◆ 中高生への働きかけ



NO. 59

隠岐の島町国民健康保険中村診療所

所長 松下 耕太郎

ウルトラマラソンが隠岐の島町との
出会いでした。走ることが趣味の私は、
広島市で勤務医として働き、全国各地
のマラソン大会に参加していました。

2008年の第3回隠岐の島ウルトラ
マラソンの大会後、記録証と一緒に「医
師情報の提供についてのお願ひ」と書
かれた1枚の紙が送られてきました。

地域医療の課題について考える機会は
時々ありましたが、マラソン大会参加
者に情報呼びかけるほどですから、
隠岐の島の医師不足が切羽詰まった状
態であることが伝わってきました。そ
して、その後、更に1通の手紙が隠岐

から届きました。マラソン大会スナツ
プ写真に私が写っていて、副町長さん
が、わざわざゼッケン番号から住所を
調べて、写真を送ってくれたのです。

私が医師であることを副町長さんにも
もちろん知りませんから、ご機嫌とりで
も何でもなく、ランナーに喜んでもら
える大会を運営しようとする心意気に

感激しました。そして、縁があり、2
010年より離島へき地医療を経験す
ることになりました。

当初は、方言がわかりづらく、同じ
苗字が多いため屋号で呼ぶ慣習にも慣
れず苦勞はありましたが、人情味豊か
な島民、すばらしい自然と新鮮な食材
で、心も身体も健康そのものになりま
した。そして、いつのまにか5年の月

日が経過し、すっかり島の生活に馴染
み、古典相撲、牛突きなど隠岐特有の
行事にも積極的に触れ、今では、屋号
が先に浮かび苗字が出てこないことも
しばしばです。

診療所を受診してくれる患者さんた
ちを元気にするには何が大切か？ いろ
いろあると思いますが、我々医療スタ
ッフがまず元気で笑顔を絶やさないこ
と。そのためには、スタッフひとりひ

と、それぞれがやりがいのある職場
環境を作る事。その環境で、スタッフ
が活き活きと仕事をしたら、それが患
者さんたちに自然に伝わり、笑顔が連

鎖していくと思います。

ところで、診療所の駐車場のど真ん
中には古い大きな桜の木が1本ありま
す。たくさんの患者さんが満開の桜に

中村診療所の桜 (2015年)



集まり
「今年
も診療
所の桜
を見る

「ことができたら」と喜んでくれます。私
も5回程経験しました。桜を眺める穏や
かな笑顔を増やすことが、我々の役目
であり、喜びです。



NO. 39

社会医療法人昌林会 安来第一病院

看護部長 宮本 裕美子



今年8月に地域
包括ケア病棟の施
設基準を取得でき
た安来第一病院を
中心とした社会医

療法人昌林会は、安来市の中心に位置
し、島根県東部および鳥取県西部と診
療圏は広範囲であり、地域医療と介
護・福祉サービスを担っています。

「安心して暮らせる地域社会の実現
への貢献」を使命に高齢者への備えと
して、1988年からデンマーク、ス
ウェーデンの高齢者福祉の視察等によ

り、地域ケア体制のあり方を学び（現在までに計17名）、関連の社会福祉法人との連携により「在宅生活の継続性」を重視した「安来保健・医療・福祉の街」のカタチがほぼ完成を見るに至ったと自負いたします。

入院治療後の生活機能の維持・改善、自立支援を図るため老人保健施設、訪問看護ステーション、配食サービス事業他その後の介護保険制度発足に必要なサービスの確保とリハビリテーション専門職の充足に努力してまいりました。

当院は現在18診療科、許可病床数386床（一般科158床、精神科228床）、法人の職員総数は700余名のうちリハビリ専門職101名、看護職員170名です。



病棟は地域包括ケア病棟
60床、回復期リハビリテーション病棟
48床、医療療養病棟50床
および精神科急性期治療病

リハビリ専門スタッフ（一部）



棟（38床）をはじめとする精神科病床228床となつています。
在宅療養患者の急変時に対応する在宅療養後方支援病院として、また急性期病棟から治療後の患者

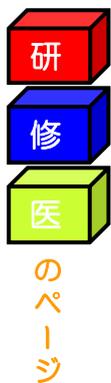
や地域からの軽中等度の患者を受け入れて、継続治療やリハビリにより、早期に在宅復帰や社会復帰を行う回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟、長期療養に対応できる医療療養病棟を有する地域密着型の病院です。

順次病棟改修工事を行い個室の確保、療養環境の向上もかなりできたと考えています。平成25年に新築移転した併設の介護老人保健施設昌寿苑も132床のうち108床は個室、24床が2床室でプライバシーの確保、運動量の向

上に効果を実感しています。

研修医をはじめ、医学生、看護学生、PT・OT・ST学生の実習はもとより地域の小・中学校、高校生の実習も積極的に受け入れ、一人でも多く医療従事者を目ざす機会となるよう全職員で取り組んでいます。

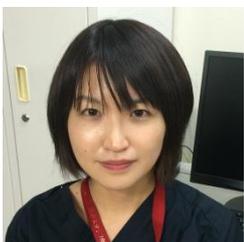
病院をはじめ関連の事業所があることで、さらに病病連携、病診連携ができ、また地域の皆様への種々の情報の提供や実践により、健康増進や介護予防にも継続して貢献していきたいと考えています。



NO. 42

松江赤十字病院

2年目研修医 青笹 有紀



日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか

でしょうか。松江赤十字病院にて初期研修を行っております青笹有紀と申します。松江赤十字病院（以下松江日赤）では1年目8人、2年目11人の合計

19人の研修医が切磋琢磨しながら過ごしています。研修医は週に2回の研修医カンファレンスへの出席に加え、院内勉強会も多く行われており、学びやすい環境が整っています。また、普段の診療においても、困ったときは上級医だけでなく、看護師、リハビリの方、栄養士など多職種に相談しやすい雰囲気があり、様々なアドバイスをいただいています。

私は現在、地域医療研修として1ヶ月間、鹿島病院で研修をさせていただいています。鹿島病院は病床数177床のリハビリテーション・看護・介護が充実している慢性期病院です。病棟は回復期リハビリ病棟、特殊疾患病棟、医療療養病棟に分かれており、入院経路は様々ですが、松江日赤からも亜急性期や慢性期の患者さんが転院して来られます。

鹿島病院に来てまず驚いたことは、入院時、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリのセラピスト、栄養士、歯科衛生士の多職種とご家族が集まり合同カンファレンスを行っていることでした。一つの円卓を囲んで、患者さんについてお話しするという光景

は急性期病院ではなかなかみられない
ものです。

また、往診や外出、訪問リハビリに
も同行させていただきました。ある患
者さんの家は築100年以上の立派な
日本家屋で驚いたり、ある患者さん
は入院前まで育てられていた畑を見せ
ていただいたり、また、ある患者さん
のご家族からは患者さんが病気になる
れる前のお話を聞かせていただきました。
病院とは全く違う、ゆったりとし
た時間の流れの中でくつろがれる患者
さんを見て、病院という場所は患者さ
んにとって非日常な場所であるという
ことを再認識しました。同時に、私は
普段の当直で、きちんと患者さんやご
家族の不安に配慮できているだろうか、
忙しさを理由に気遣いが足りていない
のではないかと反省する機会となりま
した。今後、松江日赤に戻っても、患
者さんの背景にも思いを馳せながら診
療にあたれたらと思います。

研修医になって気づけば1年半が
たち、自分は成長しているのだろうか、
どのような医師になりたいのか、患者
さんとのかわりはこれでいいのだろ
うか、など日々悩みはつきません。目

まぐるしく過ぎていく時間の中で、目
の前の患者さんとの出会いを大切にし、
こつこつと励んでいこうと思います。

島根県医療勤務環境改善支援 センターの活動報告

医療勤務環境改善支援センターは、
平成26年6月の改正医療法により都
道府県に設置することとされた機関で
す。これは、長時間労働や交代制勤務
といった過酷な労働環境におかれてい
る医療スタッフの働く環境を改善する
ことが、患者の安全と健康を守ること
につながるという思想の下、医療機関
の管理者の取組みをサポートするため
につくられたものです。

島根県では、平成27年4月に県医療
政策課内に設置しました。担当職員2



名のほか、医療
経営アドバイザー
、労務管理ア
ドバイザー等の
専門家による電
話相談体制を取
っており、時間
外労働の削減や
夜勤負担の軽減

策、介護や看護のための休暇制度の点
検、休憩室や仮眠室の整備に向けた支
援など、様々な課題へのアドバイスを
行っているところです。

平成26年10月に県内52病院を対象
に調査したところ、看護部門の月平均
時間外労働時間は4・9時間、月平均
夜勤回数は7・8回（二交代制の場合
は、1回あたりの夜勤時間を8時間に
換算したもの）となっています。また、
月平均夜勤回数が8回を超える職員が
いる病院は65・2%であり、厳しい勤
務の実態が窺えます。

現場の厳しい状況をすぐに改善で
きる魔法の杖を私たちが持ち合わせて
いるわけではありませんが、医療スタ
ッフの勤務環境改善に取り組み意欲の
ある管理者の方と手を携えながら、「で
きることから着実に」という姿勢で支
援にあたりたいと考えています。よろ
しくお願いいたします。

【医療政策課 樋野】

平成27年度 夏季地域医療実習報告会

平成27年度夏季地域医療実習を、8
月17日（月）～8月21日（金）松江



地区、雲南地区、出雲地区、県央地区、
浜田地区、益田地区、隠岐（島前・島
後）地区の7圏域に分かれて行いまし
た。総勢35名の県内外の医学部生がそ
れぞれ2泊3日で参加いたしました。

実習報告会は最終日の8月21日（金）
14時30分から16時30分まで島根大
学医学部附属病院みらい棟4階ギヤラ
クシーにて開催いたしました。例年、
島根大学、自治医科大学他、大学を超
えて参加者がいる中、学生間の交流が
不十分であることが課題になっており
ました。今年度の報告会は学生間の交
流を深めることを第一の目的とし、ワ

ールドカフェ形式
で報告会を開催い
たしました。「実習
で一番印象に残っ
た体験は？」「島根
の地域医療の良
いところ・課題は？」
「地域医療にどう
関わっていくか？」
というテーマで、
実習で経験した内
容を紹介し合いな
がら自由に意見を

交換してもらいました。訪問診療や、病院、地域の先生との会話を通して、地域医療における連携や、医師―患者関係、を体感したようです。

夏季地域医療実習に際しましては、非常に多くの地域の方々にご尽力いただきました。誠にありがとうございました。

【地域医療支援学講座 日高】

中高生への働きかけ

高校生医療現場体験セミナー

医師を目指す生徒を対象に、夏季と冬季、春季の年3回実施しており、今夏は県内13医療機関に協力を頂き、40名の生徒が受講しました。

手術見学や救命救急体験、医療機器操作、医療従事者との意見交換などを行い、高校生からは「医療現場は医師だけでは成り立たず様々な職種の医療従事者とのチームプレイが大切なのだと知ることができた」「分娩の立ち合いや医師との意見交換会などを経験し、将来、島根県で医師として働きたいという思いが強くなった」などの感想がありました。

夢実現進学チャレンジセミナー

医学部や難関大学進学を目指す高校2年生を対象にした3泊4日の勉強合宿です。合宿3日目には理系生徒30名が医学部進学の参考となるよう、島根大学医学部で手術部見学や医師の体験談聴講などを行いました。「チーム医療の必要性を実感し、自分も地域に貢献する人間になりたいと思った」などの感想があり、勉学へのモチベーションの向上に繋がったと思います。

中学生医療現場体験



より早期から医療従事者や地域医療への理解を図るため、夏休み期間中に中学1～3年生97名が、県内13医療機関で医療現場体験を行いました。

手術見学や看護体験などを行い、「知識や技術だけでなく、人との関わり方が大切だと気づいた」「理学療法士と作業療法士の違いを知ることができた」などの率直な感想がありました。

メディカル・アカデミー



医療従事者を目指す中学生を対象にした医療現場体験合宿です。今年度は県内各地から集まった15名の中学生が、島根県立青少年の家（サン・レイク）で2泊3日の共同生活を行いながら、雲南市立病院での実習やカエルの解剖などを体験しました。最終日には今回の体験を通じて感じた『医療従事者に求められること、そのために自分たちがいま努力すべきこと』をグループでディスカッションし、生徒それぞれの考えが発表されました。

それぞれの事業に参加した生徒からは「貴重な体験ができた」「普段は見えないところを見たり、知らなかったことを知ることができた」などの感想が多く見られ、若年者の医療従事者への関心は着実に高まってきていると感じます。こうした取組みを通じて島根の地域医療を支える若者が一人でも多く育ってくれるよう願っています。

【医療政策課 三木】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryou@pref.shimane.lg.jp

ホームページ：www.pref.shimane.lg.jp/iryou

島根の医師確保対策

検索

